

## Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「平和」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
1	R帝国	中村文則著	中央公論新社	2020.5		○			ある日突然、戦争がはじまっていたら？なおかつITが極端に進化していたら？一気にゲームでみたような世界が目の前に当たり前のようにひろがるのでしょうか。便利さと引き換えに、何か大事なことを失っていることを認識すべきかもしれません。
2	ある晴れた日に	加藤周一著	岩波書店	2009.10	○			○	「ある晴れた日」とは12月8日でもあり、8月15日でもある。「戦争」の陰画としての「平和」という図式は、今となっては少々単純に見えるかもしれませんが、戦争と平和をめぐるこのモチーフは加藤周一の後の著作にも何度も繰り返され、その出発点となった作品と言えます。
3	五つの証言	トーマス・マン, 渡辺一夫著	中央公論新社	2017.8	○	○			大戦前夜のドイツと大戦末期の日本にあって、2人のユマニスト（人文主義者、ヒューマニスト）が平和を求めて考えたこと。トーマス・マンは戦い、国を追われ、渡辺一夫は空襲による死の恐怖に晒されながらマンに共感し、戦後を見据えます。
4	永遠の平和のために	イマヌエル・カント著；丘沢静也訳	講談社	2022.1	○	○		○	哲学者カントによる、平和の書です。もっとも、ただの理想論ではなく、平和維持の困難さを受け入れ、その実現に向けた具体的な提言であり、現代にも通じる理論がそこにはあります。
5	AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争	庭田杏珠, 渡邊英徳著	光文社	2020.7	○			○	モノクロの、どこか遠い過去の記憶であった戦争中の写真が、AI技術によってカラー写真となって収められています。これらを見ることで、戦争は想像するよりもずっと身近なものであり、まさに現在の問題であるのだと感じられるのではないでしょうか。
6	君たちはどう生きるか	吉野源三郎著	岩波書店	1982.11	○		○	○	権力者が自分の都合の良いように道徳を作ろうとしているこの時代。これに惑わされず、何が大切なことなのかを考える指針として読んで欲しい1冊です。どうやって生きていきたいか、考えるきっかけになるかもしれません。

## Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「平和」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
7	共存主義論 : ポスト資本主義の見取図	廣田尚久著	信山社出版	2021.6			○	○	資本主義のもたらしてきた弊害、貧困や格差を打開すべく提唱される共存主義とはなにか。歴史を俯瞰し、新型コロナウイルスがもたらした現在の困難を乗り越え、新たな未来を築くための提案書です。
8	グローバル・ヒストリーとしての「1968年」 : 世界が揺れた転換点	西田慎, 梅崎透編著	ミネルヴァ書房	2015.7	○			○	1968年は、1月の「プラハの春」に始まる、世界的な社会運動の大きなうねりが発生した年でした。この前後で世界はどのように変化し、現在にどのような形で影響を及ぼしているのか。社会の転換点となった1968年を軸に、現代史を読み解く試みの書です。
9	黒い雨；駅前旅館	井伏鱒二著	新潮社	1979.6	○				第二次世界大戦時の、広島原爆罹災者の体験談をもとにした小説。主人公の一家は人のいい人たちが、姪は被爆を理由になかなか縁談がまとまらず主人公を悩ませている。もともとなった体験談はのちに『重松日記』として出版されているので、合わせて読んで欲しい。
	黒い雨	井伏鱒二著	新潮社	1985.6			○		
	Black rain	Masuji Ibuse ; translated by John Bester	Kodansha USA	2012	○				
10	幸福をめぐる哲学 : 「大切に思う」ことへと向かって	成田和信著	勁草書房	2021.8	○				「幸福」とは何だろう？どんなときに「幸福」と感じるのだろうか？本書は様々な考察を経て、「幸福」＝「大切に思う」ことだという説を提示しています。

## Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「平和」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
11	国連平和構築 ：紛争のない世界を築くために何が 必要か	長谷川祐弘著	日本評論社	2018.3	○			○	紛争のない世界はいつ訪れるのでしょうか。国連で平和活動に携わった著者が、平和な社会を築くために必要な指導者の志と役割を提言しています。
12	言葉と戦車を見すえて ：加藤周一が考えつづけてきたこと	加藤周一著；小森陽一，成田龍 一編	筑摩書房	2009.8	○	○		○	本書は、1968年のソ連軍のプラハ侵攻について論じた「言葉と戦車」を中心に、著者が終戦直後から亡くなるまでに何を考え、何を訴えてきたかが鮮明となる27の論考を収録しています。没後すぐに編まれた、加藤周一入門に最適な1冊です。
13	災害精神医学ハンドブック	ロバート・J・ウルサノ [ほか] 編；重村淳監修	誠信書房	2022.1				○	災害とは、自然によってもたらされるだけのものではありません。個人とコミュニティ、そして国同士の間で起こる紛争も災害の一つです。災害に対する個人と集団の反応を紐解き、適切な治療・介入・回復の道筋を解説します。
14	資源争奪の世界史 ：スパイス、石油、サーキュラーエ コノミー	平沼光著	日経BP日本経済新聞出版本部	2021.5	○		○	○	人間の歴史は資源の奪い合いの中で発展してきました。そうして生まれた新たな技術は、さらに新たな競争を生み出す危険性をはらんでいます。誰もが豊かに暮らせる未来のために、過去に学び、これからのあるべき未来を考えてみませんか？
15	自省録	マルクス・アウレーリウス 著；神 谷美恵子訳	岩波書店	2007.2			○	○	ドラマ『ミステリと言う勿れ』で、一躍話題となったこの本。実は古来より有名な本です。マルクスはローマ皇帝でもあり、哲学者でもありました。彼の時代にも疫病や戦争があり、彼の言葉は今の私達にも心の糧となってくれます。手元におきたい本です。
	マルクス・アウレーリウス 『自省録』；精神の城塞	荻野弘之著	岩波書店	2009.7				○	

## Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「平和」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
16	戦争というもの	半藤一利著	PHP研究所	2021.5	○				この本は、著者が人生の最後に孫のために、戦争を知らない世代のために、どうしても伝えたかったことをまとめたもので、著者の平和への願いが込められています。当時の空気感や風潮を感じ、平和を考える機会になればと思います。
17	誰がために鐘は鳴る；キリマンジャロの雪；他	ヘミングウェイ著；大久保康雄訳	河出書房新社	1989.10	○				第二次世界大戦前の、内乱が続くスペインを舞台に描かれた小説。タイトルはイギリスの詩人ジョン・ダンの説教集の一節に由来しています。
	For whom the bell tolls	Ernest Hemingway	Collier Books	1987	○				戦地で出会った男女が恋に落ちます。しかし、戦争は命のはかなさを容赦なく突きつけ…。映画にもなった作品です。
18	地図で見るロシアハンドブック	パスカル・マルシャン著；太田佐絵子訳；シ rilル・シュス地図製作	原書房	2021.7				○	ロシアがかかえる現在の課題を、地政学の視点で述べています。地図やグラフが豊富で、視覚からも読み進めていける図書です。
19	帝国のはざまを生きる ：交錯する国境、人の移動、アイデンティティ	蘭信三 [ほか] 編	みずき書林	2022.3				○	国と国、あるいは民族、地域、世代。紛争はこれらの様々な境界の中ではなく、その枠の外に、間に、疎外されながら生きる存在を作り出します。はざまに生きる人々から見た戦争とは、どのようなものなのでしょうか。
20	「帝国」ロシアの地政学 ：「勢力圏」で読むユーラシア戦略	小泉悠著	東京堂出版	2019.7	○			○	自分が考える常識と他人のそれは違う、個人間同士では理解できても、国となるとなかなか理解しがたいものです。本書はロシアの視点に立ち、「ロシアの論理」を紹介してくれています。まずは少し、ロシアの考えを知ってみませんか？

## Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「平和」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
21	七三一部隊と大学	吉中丈志編	京都大学学術出版会	2022.4		○			科学は戦争によって大きく進歩する一歴史の中で何度も繰り返されたこの言葉はしかし、科学者たちが倫理を踏み越えることを許容しない。 第二次世界大戦で大学が送り出した知的エリートたちは、どのように現実と向き合ったのだろうか。
22	ニッポン未完の民主主義 ：世界が驚く、日本の知られざる無意識と弱点	池上彰, 佐藤優著	中央公論新社	2021.4		○		○	みんなが当事者でみんなが賢くないといけなくて、そうしない限りとても成立しないもの。 民主主義の本質のように思います。戦争から縁遠く平和があたり前の世の中を維持するのって、現実問題としてもものすごく残酷でシビアなのかもしれません。
23	日本語が世界を平和にする これだけの理由	金谷武洋著	飛鳥新社	2018.10	○				カナダで長く日本語を教えていた先生が、日本語の素晴らしさをわかりやすく、言語学的な視点で教えてくれる本です。日本語と他の言語を比較し、様々な観点で考察されていて、読んだ後は日本語が好きになっています。「日本語が世界を平和にする」を実感してください。
24	ヒトラーとスターリン ：死の抱擁の瞬間	アンソニー・リード, デーヴィッド・フィッシャー著; 根岸隆夫訳	みすず書房	2022.3				○	第二次世界大戦において、この二人の指導者の元で多くの命が失われたことは周知の事実です。しかし、それがなぜ起こったのか。なぜ、そのような結果を回避できなかったのか。膨大な資料を紐解き、その謎に迫ります。
	ヒトラーとスターリン ：死の抱擁の瞬間; 上	アンソニー・リード, デーヴィッド・フィッシャー著; 根岸隆夫訳	みすず書房	2001.6	○				
	ヒトラーとスターリン ：死の抱擁の瞬間; 下	アンソニー・リード, デーヴィッド・フィッシャー著; 根岸隆夫訳	みすず書房	2001.6	○				

## Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「平和」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
25	日はまた昇る	ヘミングウェイ著；高見浩訳	新潮社	2003.7		○			ヘミングウェイの初めての長編小説。アメリカでは第一次世界大戦中に青春を過ごした人たちをロスト・ジェネレーションと呼んでいます。日常の些細な幸せを感じることなく、未来の希望を抱けない彼らに、情熱を注げるものは見つかるのでしょうか。
26	秘密の戦争 ：共産主義と東欧の20世紀	ティモシー・スナイダー著；松井貴子編	慶應義塾大学出版会	2021.11	○				キエフ生まれのポーランド人の生涯を通じて描かれる、ポーランド・ウクライナの苦難の歴史。スターリンとヒトラーが跋扈する、20世紀東欧の動乱の時代を、彼がどのように生き、そして何を見たのか。過去は、現在とどうつながっているのだろうか。
27	武器よさらば；上	ヘミングウェイ著；金原瑞人訳	光文社	2007.8				○	ヘミングウェイが、スペイン内乱や第二次世界大戦で従軍記者として関わった経験をもとに書かれた作品です。舞台は第一次世界大戦中のイタリア戦線。主人公は、戦地で見つけた恋人と軍隊を脱走します。二人に幸せは訪れるのでしょうか。
	武器よさらば；下	ヘミングウェイ著；金原瑞人訳	光文社	2007.8				○	
28	戦争と平和；1	トルストイ著；中村白葉訳	河出書房新社	1989.10	○				国家主義などのイデオロギーに溺れず、一個人としての人間を見る、洞察力を皆さんにお伝えしたいと考えました。 遠い外国の名前も知らない人が戦争で苦しんでいるのを、自分の出来事として「悲しむ」＝「愛しむ」心をぜひ学んでいただきたいです。
	戦争と平和；2	トルストイ著；中村白葉訳	河出書房新社	1989.10	○				

## Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「平和」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
29	暴力と紛争の"集団心理" : いがみ合う世界への社会心理学からのアプローチ	縄田健悟著	ちとせプレス	2022.2			○	○	みんな一緒なら大丈夫？集団による暴力や紛争はなぜ起きるのでしょうか。心理学から解決への糸口を探ります。
30	ミハイル・ゴルバチョフ : 変わりゆく世界の中で	ミハイル・ゴルバチョフ著；副島英樹訳	朝日新聞出版	2020.7			○	○	ロシアもウクライナもかつてはソビエト連邦という一つの社会主義国でした。1991年にソビエト連邦が崩壊し、ロシアの最初の大統領となったゴルバチョフ氏によるソビエト連邦崩壊時の回想と、未来への提言が記されています。
31	民主主義	文部省著	KADOKAWA	2018.10	○	○	○	○	昨今、民主主義という言葉に触れることが増えています。かつての日本と同じように世界では民主主義は当然のものではありません。この本は、文部省が戦後間もない頃に出版した中高生向けの民主主義に関する教科書です。過去と現在、そして未来社会を考える方へお勧めします。
32	リベラルアーツの法学 : 自由のための技法を学ぶ	松田浩道著	東京大学出版会	2022.3				○	古今東西の古典から法がどのように我々の社会に関わってきたのかを読み解き、これからの未来を生きる力に変える魔法の書です。法律の意義とその醍醐味を味わっててください。
33	レジリエンス人類史	稲村哲也 [ほか]編	京都大学学術出版会	2022.3		○			困難や脅威に直面している状況に対してうまく立ち回る能力を「レジリエンス」といいます。 人類はこれまで、実に多くの問題に直面してきました。それを乗り越えてきた叡智を本書から学び、未来を生きる力に変えていきましょう！
34	わかりやすさの罫 : 池上流「知る力」の鍛え方	池上彰著	集英社	2019.2	○		○		だまされて大変なことになった。一見してよさそうなものには背景があります。見抜けとはいいません。そのかわりせめて怪しい匂いを感じることはできますか。日々鍛錬し共感できる仲間を見つけることで、平和ははじめて当たり前になるのかもしれない。